

エリザベス女王の国葬 ～最後のお別れ～

9月19日、英国女王エリザベス2世の国葬がロンドンのウェストミンスター寺院で執り行われました。国葬には、天皇皇后両陛下が参列されたほか、各国から約500人の元首や首脳らが出席しました。英国国民だけでなく世界の人々から敬愛された女王との最後の別れについて、現地の様子をお伝えいたします。

◆エリザベス女王逝去で悲しみに包まれる英国

9月8日15:00過ぎ、その逝去の第一報がもたらされると、国中に衝撃が走りました。それと同時にロンドンでは街中の電子広告がブラックアウトし一気に光を失い、女王逝去の「2022年」が刻まれたポर्टレートへ切り替わりました。その切り替わりの速さにとても驚かされました。

国葬前には、女王の棺が安置されている英議会議事堂ホールにて一般弔問が行われ、各国から人々が訪れ、一時は待ち時間が24時間を超えるなど列は絶えることなく、改めて多くの人々から愛されていたことを実感しました。私も現地へ赴き一般弔問に参列しましたが、ここでは、涙を流しながら待つ人や棺が安置されている方向へ敬礼している人の姿が多くありました。特に、朝晩の冷え込みが厳しくなる中、人々が寒さに耐えながら、女王との最後の別れの時を待っている姿がとても印象的でした。

◆苦しむ英国に見えた変化

エリザベス女王は英国のEU離脱や新型コロナウイルスの蔓延など激動の時代を歩み、そのような難局で融和と団結を呼びかけてきました。女王が逝去する直前、英国では物価高騰を受け、賃上げを求める鉄道ストライキが起こるなど国内が混乱しました。ストライキに反発する政府と生活苦に悩む市民が対立を深めましたが、女王に哀悼の意を示すためにストライキが中止となるなど、女王の逝去をきっかけに国民と政府が一体感を再び取り戻す動きが出てきています。

英国史上最も長く君主を務め、国民のために生涯を捧げたエリザベス女王の意志を継ぎ、英国が結束を固め難局を乗り越えられるか見守っていきたいと思います。



ロンドン市内の電子広告に映し出されたポर्टレート



一般弔問に訪れた人々の長蛇の列

(ロンドン駐在 油井 駿斗)

【お問合せ先】

七十七銀行 市場国際部 アジアビジネス支援室
TEL.022-211-9880

【Global Letter NEXT ホームページ】

その他の記事はこちらからご覧ください。

https://www.77bank.co.jp/kokusai/globalletter_next/

本紙記載の内容につきましては、当行が信頼できると考える情報に基づき作成しておりますが、その正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談いただくようお願い申し上げます。